

# 日吉大社自然観察倶楽部通信

## No.4 日吉大社の桜を見る！

H23年4月3日

4月とはいえ上着の必要な肌寒さの中、13名の参加者と共に桜の観察会を行いました。一見、桜などどこにも見当たらない中でのスタートです。

まず、辻田先生から桜の説明がありました。それによると、桜は「サ」と「クラ」に分けられ、それぞれ、「穀霊(いねのかみ)」と「神座」を意味します。つまり、桜は神の宿る木であり、その咲き具合・散り具合で、米の豊作・凶作をも占っていたそうです。農耕の始まった時代から、桜はとても大事な木であったことを裏付けています。

また、桜は他の木の桜としか受粉できない(→自家不和合性)ため、様々な種類があるのも特徴です。(例えば、オオシマザクラ+エドヒガンザクラ→ソメイヨシノ)そのため、桜は300ほどの種類があると言われています。



次に、日吉参道から日吉大社にはどんな桜があるか、調べに行きました。有名なところでは、薬樹院のシダレザクラがありますが、他にもキンキマメザクラ・ヤマザクラ・オオシマザクラ・カスミザクラまで見ることができました。寒さの影響か、ほとんどが蕾でしたが、左の写真は、唯一咲いていたキンキマメザクラです。

参道には、ソメイヨシノとヤマザクラがほとんどで、葉と同時に開花するヤマザクラと見分けることができます。花のみが豪華に咲くソメイヨシノは、日本全国に広まり、植えられています。(自家不和合性のために)原木を接ぎ木で増やした結果、同じ性質を持った木が各地にあることになり、桜前線がニュースなどで報じられるわけです。

右の写真は、桜の花びらがどんな風に散るかという実験です。



発泡スチロール(の薄い板状のもの)をいろんな形に切って落とすと、  
四角(そのまま) < 花びらの形 < 花びらの形に少し反りを入れたもの  
という結果になりました。反りを入れた花びらは、とても優雅に、長い間空中を舞  
っていました。散る様が美しいこともまた、桜の魅力であるようです。

日吉大社内の歴史ある桜を見た後に、**日吉桜**の説明を受けました。  
日吉桜とは数ある桜の種類のひとつであり、文献では日吉大社にその原木があると  
言われています。花びらが何層にも重なり、白い八重桜の様にも見えますが、散る  
間際に花の中心が赤くなるのが特徴です。しかし、今現在、日吉桜は日吉大社内で  
見つかってはいません。こうした現状を受け、3年後には日吉桜を日吉大社に復活  
させる予定があるそうです。この通信でその事をお知らせする日が来るのが楽しみ  
です。



最後に、桜餅と桜のほうじ茶  
を頂きました。

桜餅は、オオシマザクラの葉  
で包まれており、お茶は同じく  
桜の葉の少し甘い匂いのする優  
しい感じのお茶でした。

桜がほとんど咲いていない中  
で蕾をじっくり見ていた観察会  
でした。でも見て楽しく、どこ  
か儂げな桜は、食べても飲んで  
もおいしかったです。



集合写真

佐方さん・大鍋さん  
檜原さん・平松さん  
中川さん・三木さん  
北村さん・杉田さん  
小林さん・林さん  
辻井さんご夫妻  
辻田さん